

太平洋イカ類漁場調査

(抄 録)

黄金崎 栄 一 ・ 大 川 光 則

1998年6月～11月に西経175度以西の太平洋海域で、試験船東奥丸(140トン)、開運丸(208トン)でスルメイカ・アカイカの漁場調査を実施した。

ス ル メ イ カ

1998年の本県太平洋に来遊したスルメイカ漁は、6月9日に白糠、25日に八戸で漁期が始まった。白糠では初漁こそ前年並と好調な出足であったが、太平洋沿岸の7月以降のスルメイカの漁獲は89年以降好調に漁獲がのびてきた中では、低い水準の水揚げであった。

太平洋に来遊するスルメイカの資源は1989年頃から増加傾向にあり、資源水準は中位水準であると見られていた。

しかし、98年度の(98年6月～99年1月までの漁獲量)漁獲量は、白糠で503トン、八戸で1,993トンとなっており、対前年比でそれぞれ28%・24%に留まった。

また、小型イカ釣船によるCPUE(一隻1日当たり漁獲量)も89年以降のにおいて低い値となっていた。

ア カ イ カ

1998年度の八戸港におけるアカイカの水揚量は、48,257トン余りで(原魚換算漁獲量63,769トン)、昨年を上回った。大畑港ではアカイカのほとんどが八戸港に水揚げされるため1.5トンに留まった。

98年のアカイカ漁獲量は97年の漁獲量(28,000トン)を上回り、不調だったスルメイカの水揚げを補う結果となった。

アカイカの漁獲量が好調だった要因として、三陸・道東沖の暖水塊にできた漁場が11月から漁期終了まで好漁場が形成されたことが上げられ、今後この海域の漁場形成及び予測が重要視されるものと考えられる。

発表誌：

平成10年度イカ釣漁場開発調査資料24号(平成11年5月)

平成10年度外洋性イカ(スルメイカ・アカイカ)に関する生物測定・標識放流・海洋観測結果基礎資料集(平成11年5月)青森県水産試験場